

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

Itoh K, Katsumi Y, Hirota S, et al. Randomised trial of trigger point acupuncture compared with other acupuncture for treatment of chronic neck pain. *Complementary Therapies in Medicine* 2007; 15: 172-9. CENTRAL ID: CN-00611476, PMID: 17709062

1. 目的

慢性頸部痛患者に対するトリガーポイント鍼治療の有効性の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

明治鍼灸大学附属病院、京都、日本

4. 参加者

6か月以上頸部痛を有する 45 歳以上の患者 40 名。

5. 介入

Arm 1: トリガーポイント鍼治療群 (10 名)。ディスプレイサブルステンレス鍼 (0.20×50mm、セイリン社製) を用いたトリガーポイントに対する鍼治療。

Arm 2: 標準鍼治療群 (10 名)。ディスプレイサブルステンレス鍼 (0.20×40mm、セイリン社製) を用いて、頸部痛に対する標準的経穴: 風池 (GB20)、肩井 (GB21)、天柱 (BL10)、大杼 (BL11)、缺盆 (ST12)、気戸 (ST13)、外関 (TE5)、合谷 (LI4)、後谿 (SI3) に 20mm (筋内) 刺入、雀啄を施し、患者の得気を得た後 10 分間置鍼。

Arm 3: 非トリガーポイント鍼治療群 (10 名)。ディスプレイサブルステンレス鍼 (0.20×50mm、セイリン社製) を用いた、トリガーポイントのある筋上の 50mm 以上離れた圧痛のない部位への鍼治療。

Arm 4: シャム鍼治療群 (10 名)、ステンレス鍼の先端をカットしたシャム鍼 (0.20×50mm) を用いた、トリガーポイントを対象に、刺入し雀啄したかのように見せかけ、10 分後に抜鍼するふりの治療。

いずれの群においても、週に 1 度の治療を 3 回行った後 (3 週間)、3 週間の無治療期間を置き、これを 1 クールとし、2 クール行った (計 13 週)。

脱落者は Arm 1、Arm 2、Arm 3 でそれぞれ 2 名、Arm 4 で 3 名。

6. 主なアウトカム評価項目

頸部痛についての VAS を治療前、治療後 1-3、6-9、12 週後 (計 9 回) に測定。Neck Disability Index (NDI) を治療前、治療後 3、6、9、12 週後 (計 5 回) に測定。

7. 主な結果

VAS、NDI とともに、Arm 1 は、治療前に比べ治療後 3 週間で有意に改善したが (いずれも $P<0.01$)、他の 3 群では有意な改善はみられなかった。また、VAS、NDI とともに、2 クール目の治療終了後 (9 週目) には、Arm 1 は他の 3 群と比較して有意に改善した (いずれも $P<0.01$)。

8. 結論

慢性頸部痛に対してトリガーポイント鍼治療は標準鍼治療より有効である。

9. 鍼灸学的言及

鍼の有効性に関しては、治療部位、治療方法、刺激強度の 3 つの要素が重要であること、また、トリガーポイント治療が有効となる機序として感受性の亢進した侵害受容器の関与について言及している。

10. 論文中の安全性評価

脱落者のうち 3 名は症状の悪化による。

11. Abstractor のコメント

本研究は、トリガーポイント鍼治療の効果を、シャム鍼を含めた他の 3 群との比較によって検証しようとしたもので、デザイン的にも非常に高く評価できる。シャム鍼についてはマスクの成功についても報告されている。本研究のもう 1 つの特徴は、2 クールの治療期間を設定し治療と治療の間にインターバルを置いたことが挙げられる。インターバルの後の経過については少し本文で触れられているが、その後の効果の持続がどうであったかは非常に重要であると考えられ、その点について詳細な報告と考察が望まれる。全般的には、優れた研究デザインに基づいた有意義な研究である。

12. Abstractor

保坂政嘉 2011.9.11